



今月のイチオシ化石紹介

Mesopusozia yubarensis

本標本は、住房は残されていないものの保存状態は良好であり、保存部分の直径が435mm、螺管は緩く巻くが圧密のため扁平化している。外殻が保存されていないため肋の形態は不明である。中田 (2017)で報告された標本と同程度の大きさがあり、同層準から産出した。産出層準は中田 (2017)のD層準、大森ほか (印刷中)のUnit4 基底部分にあたる。

普段の体験発掘では使用していない層準であるが、庇状になってきたので安全管理のため取り外した岩塊の下から産出した (図 1)。本標本は、図 2 で示されているように層理面にはほ

ば平行に堆積しており，その産状は大森ほか (印刷中)で記載されたアンモナイトセンター館内の露頭とよく似ている。

D 層準からは現在までのところ，*Mesopuzosia* 属のアンモナイト類以外の産出は確認されていないが，*Inoceramus uwajimensis*, *Clisocolus odochiensis*, *Eriphyla higoensis*, *Apiotrigonia minor* などの二枚貝化石の共産が報告されており (中田, 2017)，本標本産出時にも *I. uwajimensis* が共に産出した。また，本標本の下位には破片化した二枚貝化石が散在している様子が観察される (図 2)。

体験発掘の際に主に発掘している大森ほか (印刷中)の Unit2 や Unit3 からは多様なアンモナイトが産出する (例えば; 村宮ほか, 2022)。特に Unit3 から産出するアンモナイトは *Anagaudryceras limatum*, *Gaudryceras denseplicatum*, *Eubostriyoceras indopacificum* に限られるものの保存状態の良好なものが多い。



図 1. *Mesopuzosia yubarensis* 産出地点の様子 (白矢印は *Mesopuzosia yubarensis*)。)



図 2. *Mesopuzosia yubarensis* 周囲の地層の様子。

(参考文献)

- 村宮悠介・猪瀬弘瑛・歌川史哲・相場大祐・安藤寿男・大森光, 2022. 上部白亜系双葉層群足沢層から産出したコニアシアンアンモノイド. 日本古生物学会第 171 回例会, P21.
- 中田健太郎, 2017. いわき市アンモナイトセンター体験発掘場より産出した白亜紀新世の *Mesopuzosia* 属大型アンモナイトとその古生物学的意義. いわき市教育文化事業団研究紀要, 15: 1-10.
- 大森光・安藤寿男・村宮悠介・歌川史哲・隈隆成・吉田英一, 印刷中. 双葉層群足沢層 (上部白亜系コニアシアン階下部) 浅海成細粒砂岩の大型アンモナイト密集層と巨大炭酸塩コンクリーション濃集層. 地質学雑誌, 128 (1).

10月・11月の行事報告

- ・体験発掘
開催回数：36回
- ・特別体験発掘
開催回数：9回
- ・第三回親子自然探訪教室「陶芸に挑戦しよう！」11/3開催



写真1. 作品を製作中の参加者の様子.

12月の行事予定

- ・体験発掘 (毎週土・日曜日, 10時～11時30分, 13時30分～15時, 但し, 雨天中止)
上限200人で開催します.

お知らせ

- ・9月7日(水)に予定されておりました化石講演会「解き明かせ、恐竜のナゾ！」は1月27日(金)に日程を変更致しました.

お知らせ(重要！)

Notice!! Notice!!

体験発掘に参加される際は運動靴または長靴の着用をお願い致します。サンダル(クロックス含む)や踵の高い靴での体験発掘場への入場は安全確保のため、お断りしております。皆さまのご理解とご協力をお願い致します。



いわき市アンモナイトセンター (Iwaki City Ammonite Center)
〒979-0338 福島県いわき市大久町大久字鶴房 147-2
TEL : 0246-82-4561 FAX : 0246-82-4468
URL : <http://www.ammonite-center.jp>
E-mail : info@ammonite-center.jp